



新人職員一泊宿泊研修について



日時：10月30日(金)～31日(土)
場所：スパランド裸・楽・良
(株)カクイックス他



教育委員会委員長・4階西病棟師長 福永

- 10/30・31日に新人一泊宿泊研修を行いました。通常は、入職後すぐの5月に実施していますが、今年度はCOVID-19の影響により10月実施となりました。看護部新人7名と医療技術部2名が参加しました。
入職後半年が経過しているため、グループワークやウォークラリーでは、例年以上のチームワークが発揮されている印象を受けました。
講話の中では、職業人としての在り方について改めて考える機会になったと思います。また、体験学習では普段見ることのできない一面も見ることができ、驚かされました。
今回の研修で気分もリフレッシュできたのではないのでしょうか？
● 研修中で作成したマンダラートが達成できるよう期待しています！



㈱カクイックス工場見学



スパランド裸・楽・良での研修



陶芸体験 (みやま陶芸館)



薩摩藩英国留学生記念館

<新人職員一泊宿泊研修に参加して>

回復リハビリ病棟 大曲

今回の研修では、カクイックスの見学・他己紹介・久々湊副院長の講話がありました。研修の中で、マンダラート作成をグループで行い、1年間の目標を立て、選ばれる看護師になるために、まずは、患者に寄り添い話を傾聴し、患者の気持ちを汲み取る必要があり、その為には、患者とコミュニケーションを図り、疾患について学習をし経験を積む必要があると感じました。

今年は国家試験もある為、まずは国家試験に合格できるよう勉強に励んでいきたいと思っています。また、私は、優先順位の付け方が不足している為、今後優先順位の付け方について先輩方のアドバイスを参考にしながら学んでいきたいと思っています。

4階東病棟 早瀬

今回、「医療人として必要な資質が理解できる」を目標として新人職員一泊研修に参加させていただき、他部署との繋がりも増え、気分転換にもなり貴重な時間となりました。また、入職して半年経ったからこそ、できるようになったこと、不足していること等が明文化され、より一層気が引き締まりました。そして、副院長より講話があり「職業人としての自立」についても学びました。今回の一泊研修を通して、学んだこと感じたことを胸に多職種との連携も大切にしながら、医療人としての自覚を持ち、努力していきたいと思っています。

院内研修

ラダーⅢ 「退院支援」を受講して

講師：地域連携室副室長 瀬戸口 久美子



P F M 神田

回復リハビリ病棟 濱田

退院支援は患者が退院後に必要な医療や看護をどこで受けながら療養するか、どのような生活を送るか、自己決定支援するために多職種連携が必要です。患者、家族の希望を叶えるために、私たちが現在行っている退院調整や退院前カンファレンスを実施し、地域との連携を図ることが重要であると再認識しました。患者家族の思いに耳を傾け、問題解決に向けて、各部署・多職種への積極的な関りが行っていけるように、日々の業務に取り組みたいと思います。



退院支援を行うにあたり、多職種との連携は必須です。各々が高い専門性を前提に目的と情報を共有し、連携補完し合うことで患者の状況に的確に対応した医療を提供することができます。病棟看護師の専門性として全身状態の観察だけでなく、退院後の生活の再構築に向けたかわりが必要となってきます。実際、退院が近くなつてから退院後の生活に不安や支障を感じることもあり、早期からの退院支援が必要であることを実感していて、また、患者家族が疾患や今のADLに対して受容できていないこともあるため、「医療管理上の課題」「生活・介護上の課題」も明確にし、現在の状況、今後の回復を考慮し、退院後の患者の生活に合致しているか念頭に置きながら早期から患者家族と話を行い、退院支援につなげていきたいと思っています。

ラダーⅡ 「災害対策」を受講して

講師：手術室師長 宝満 一成

4階東病棟 阿部

今回の災害対策の研修では、災害発生時に病棟看護師としてどのように役割を果たすべきなのか学ぶことが出来ました。私自身は入職して1年7か月が経ちましたが、恥ずかしながら階段から患者を避難させることが出来るキャリアダンが各病棟のデイルームに設置されていることを把握できておらず、使用方法も含め今回の研修での見学で初めて知った状態でした。地震や火災などの災害はいつ起こるか分かりません。今回の学びをしっかりと活かせるよう、実際に消火器等の確認や、災害マニュアルやアクションカードの確認を行い、チームの一員としての役割を果たせるように備えたいと思います。



看護補助者研修(障害を有する患者への対応)を受講して

講師：脳卒中リハビリテーション看護認定看護師・4階西病棟師長 福永 香



3階東病棟 阿保

視聴覚障害者の体験をしてみて、介助者の手添えと声かけが頼りで、耳からの情報を得ようと、いつもより集中している事に気がきました。歩いていくと方向感覚が分からなくなり、正しく物の位置が分からないので、椅子に座ることも怖く感じました。障害といっても「盲」「弱視」「半盲」など種類もあり、一人ずつ見え方も違ったりすること、「空間無視」についての知識も増えました。

介助をする時は、必ず自分の名前を名乗り、正確に伝える事が大切だと学びました。QOLの維持のため、今回の研修で学んだ事を活かし、視覚障害者のできる事を増やしていくサポートが出来るようになりたいと思いました。



認定看護管理者教育課程「ファーストレベル」を受講して



3階東病棟主任 満園

今回、認定看護管理者ファーストレベルを受講しました。ヘルスケアシステム論・人材管理・質管理・組織管理・資源管理と多岐にわたる管理に関する内容を基礎から学び、自部署の課題と思われる内容について、看護管理実践計画書を作成しました。看護とは、組織とは、なぜ目標が必要でその目標に向かい管理者は何が問題であるのか明確化する、戦略を立てて計画しPDCAサイクルを回す重要性を理解しました。自身の役割について再認識することができました。受講し学んだ知識を人材育成・職場風土づくりなどに貢献していきたいと思えます。最後に、今年でナイチンゲール生誕200年です。今、私たちが行っていることとナイチンゲールが唱えたことが、さほど変わりはなく、ナイチンゲールは素晴らしいなーとファーストレベル研修受講し改めて感じました。

手術室主任 大迫

研修会では看護管理者に必要な基礎知識（組織論、質管理、人材育成、危機管理、政策立案、創造する能力）と社会情勢の変化とそれに伴う諸制度の変遷から自施設や看護職の役割等を中心に学びました。健康を守りその人らしい生活を支える社会的責務を果たすために、看護はいつも人々と共にあり、その時々巡り合わせにより、その人に最適な看護を提供するための豊富な知識と見解、柔軟な思考を養うことが大事であると分かりました。地域住民とスタッフにとってベストホスピタルになるために、今回の研修を現場で実践し、組織全体で取り組むため、自分の考えを言語化することから始めたいと思えます。



「第2回セル看護推進研修会」を受講して

回復リハビリ病棟師長 小牧

今回のWeb研修に全国から約400名の参加があり、セル看護提供方式に対する関心の高さがうかがわれました。基調講演では、患者・家族の「一人ひとりが大切にしてもらったと感じていただくこと」が大切であり、「私たちが何をやったかではなく、患者にどんな価値を提供できたか」また、看護業務のムダを省き「ジャスト・イン・タイム」＝タイムリーなケアの提供（必要なものを必要な時に、必要な分提供する）を行い、自分が行っている業務が、患者やチーム医療メンバーにどんな影響を与えるのかを考えることが重要であると学びました。部署の活性化へと繋がっていくようにフィードバックの実践に努めていきたいと思えます。

4階東病棟師長 別府

6月よりセル看護を導入し、日々定着するために試行錯誤している中での受講は、問題解決に大きなヒントを得る事ができました。ポイントは、タイムスケジュール管理です。基本スケジュールを把握し、確実に実践する。「忙しいから無理」ではなく、忙しい時こそどのようにマネジメントするかが重要になります。その解決には、補完と役割モデルが重要。補完の解釈はPNSとは異なり自分から申し出る事。また、セル看護についてイメージ化できるように日々のブロックリーダーは、役割モデルを示すことで、セル看護を伝授できます。このことを基本的解釈とし、定着に向けて取り組んでいく事と思えます。

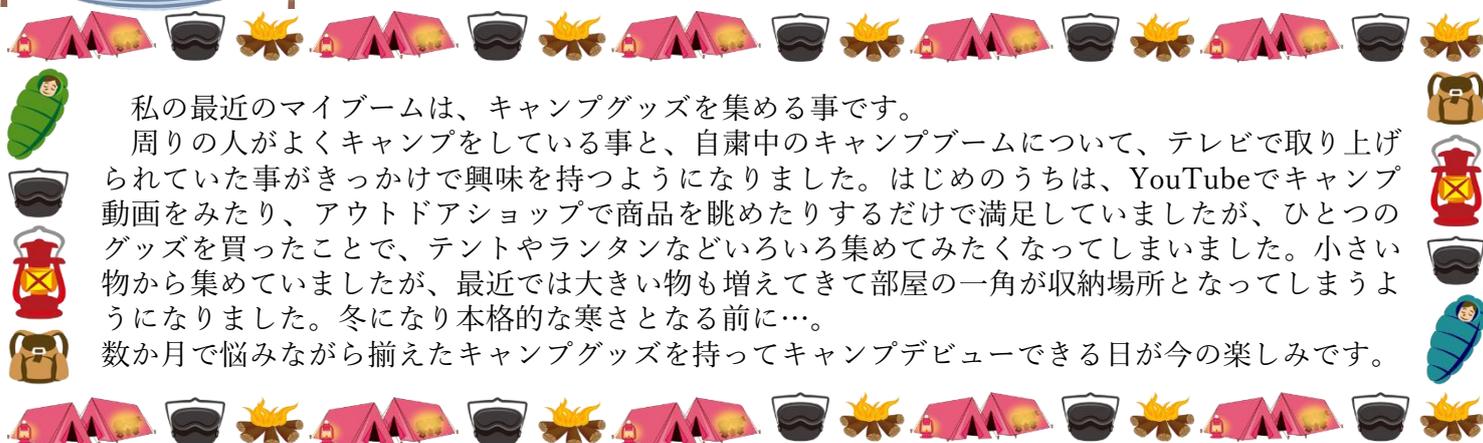
患者は10月半ばに脳幹梗塞を発症し入院。発症してから発語は全くなく、右上下肢の不全麻痺がありました。左上下肢の麻痺なく、よく動かしていました。発語はありませんが、左手や首を動かし、意思表示することができていました。

入院して約1か月後に、患者の特バス入浴の介助に入りました。普段は患者の人数も多く、シャワー浴で終わらせてしまうことがほとんどでしたが、その日は気温も低く、どうしても浴槽に入りたいという私の思いが強く、5分程度でしたが入浴しました。入浴するなり、患者は気持ちよさそうな落ち着いた表情になり、左手をよく動かし頷いていました。「気持ちいいですか?」と問うと、左手を挙げ思いっきり頷きました。

病院では、入浴日も決められており、寝たきりの患者であると、週に1回の特バスでしか入浴ができません。それも、私達看護者の都合で浴槽に浸かれないことがほとんどです。今回患者の行動や表情を見て、改めてケアの大切さに気付くことができました。業務的になりたくない強く思っていますが、日々慌ただしく仕事をしていると、1日の自分の行動を振り返ることもなく、業務的になっていることにすら気づけずいました。しかし、今回の出来事が自分の看護を振り返るとても良いきっかけとなり、何年経っても初心を忘れずに、患者が心地よく入院生活を送ることができるよう看護していきたいと思えます。

マイブーム

手術室 川添



私の最近のマイブームは、キャンプグッズを集める事です。

周りの人がよくキャンプをしている事と、自粛中のキャンプブームについて、テレビで取り上げられていた事がきっかけで興味を持つようになりました。はじめのうちは、YouTubeでキャンプ動画をみたり、アウトドアショップで商品を眺めたりするだけで満足していましたが、ひとつのグッズを買ったことで、テントやランタンなどいろいろ集めてみたくなってしまいました。小さい物から集めていましたが、最近では大きい物も増えてきて部屋の一角が収納場所となってしまいました。冬になり本格的な寒さとなる前に…

数か月で悩みながら揃えたキャンプグッズを持ってキャンプデビューできる日が今の楽しみです。

看護必要度のお知らせ



看護必要度 第8版と「看護必要度」評価者のための学習ノート最新版を2冊ずつ師長室に準備しています。ご活用ください。

編集後記

予測のつかないCOVID-19の猛威、皆様のご理解とご協力を頂き、お互い助け合いながら乗り切っていきましょう。(田口)

